

# GAP指導事例



一般社団法人全国農業改良普及支援協会では、国際水準GAPガイドラインの促進を図るため、農林水産省補助事業により、令和4年度より「国際水準GAPガイドライン普及促進研修」を実施しています。

この事例集は、GAP指導に関わる皆様の指導資料の一助となるよう、令和6年度における当研修の受講者に協力願い、作成いたしました。



■ 県域活動事例

県域で取り組むGAP第三者認証取得への支援 1

群馬県農政部野菜花き課

■ 県域活動事例

きのこ生産企業へのGAP認証取得支援 4

長野県農政部農業技術課 副主任専門技術員 風間 宏

■ 普及センター活動事例

農業高校のGAP認証取得支援と指導能力の向上 6

香川県西讃農業改良普及センター 片桐孝樹、小河原良文

■ 普及指導員活動事例

GLOBALG.A.P.の認証更新に向けた内部検査の実施 8

愛媛県南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室

■ 普及指導員活動事例

屋久島における茶生産者へのGAP支援 10

鹿児島県熊毛支庁屋久島事務所農林普及課

# 県域で取り組むGAP第三者認証取得への支援

所属 群馬県農政部野菜花き課

## 主な活動内容

- GAP団体認証の新規取得・維持を目指す生産組織に対して、関係JA、全農ぐんま等と連携して支援している。
- 支援内容としては、取り組み開始前の合意形成に向けた検討会、取り組み開始後の現地研修会開催、書類整備、作業場等の確認、審査に向けた準備等である。
- 認証取得が目的とならないように、農家の経営破綻や産地の存続危機を招くような大きなリスクの排除を関係者の共通目標として取り組んでいる。
- 内部監査や審査時には、管外のJA担当者や普及指導員も参加できるようにし、GAP指導に触れる機会を作ることで、実践的なGAP指導ができる人材を育成している。

## 指導先の概要

認証の種類 : GLOBALG.A.P.

認証の取得年 : 令和3年(1部会)、令和4年(1部会)、  
令和7年(1部会)

品目 : レタス(1部会)、レタス・キャベツ(2部会)

面積 : レタス90ha、キャベツ45ha

認証の種類 : JGAP

認証の取得年 : 令和3年(1部会)、令和5年(1部会)、  
令和6年(1部会)、令和7年(1部会)

品目 : レタス(2部会)、キャベツ(1部会)、  
ブロッコリー(1部会)

面積 : キャベツ108ha、レタス160ha、ブロッコリー20ha

※面積は、登録ほ場の合計面積

## 指導先の概要(続き)

- レタス、キャベツ、ブロッコリーの生産部会で、雇用を導入した大規模経営体で構成されている。
- 支援対象7部会（約50戸）で、GLOBALG.A.P.に3部会、JGAPに4部会が取り組んでいる。
- 各部会とも契約を主とした販売形態で、取引先からGAP認証を求められていたことが、第三者認証取得を目指す契機となった。
- 中山間地域では夏秋期、平坦地では秋冬期の出荷を主としており、地域の特徴を活かした生産を行っている。
- 雇用導入している農家が多いことから、GAPの取り組みにより、労働安全や労務管理等において改善効果が見られている。
- 部会等の生産組織だけでなく、個別にGAPに取り組む農家に対しても関係機関と連携した支援を行っている。

## 活動、指導のポイント

### 《農家への支援》

- GAP関連の知識習得の場として、食品衛生、労働安全、肥料農薬、IPM等の講習会を関係機関と連携して開催している。
- 現地指導の際には、関係機関の複数名で対応することで、リスクや書類の不備等の見落としがないようにしている。また、指導内容の目揃えの場としても活用している。
- 新たに取り組む農家に対しては、できている部分を伝え、前向きに取り組んでもらえるように心掛けている。また、改善が必要な内容については、リスク面等から説明し、納得してもらえるようにしている。
- 部会員全員が集まる機会に、書類確認やリスク検討会を実施している事例があり、部会員同士の情報共有や意識向上に効果的な場となっている。



部会での書類確認

## 活動、指導のポイント

### 《指導者の資質向上》

- GAPの基礎知識を身につけるため、JGAP指導員基礎研修等の座学研修を毎年実施している。
- 現地での指導経験が浅いと、自信を持った指導ができないため、書類確認、作業場・倉庫の整理整頓、内部監査・検査、審査などの現地指導への立会いで経験を積める場を設けるようにしている。
- 管内だけでなく、管外の担当者も現地指導に参加できる体制をとっており、実践的なGAP指導を経験できるようにしている。
- 認証取得が目的とならないように、GAPに取り組む意義を関係者で確認しながら指導を行っている。
- 複数農家を対象とする団体への指導は、指導経験を積み上げる場として非常に効果的である。団体指導での経験を個別農家への指導にも活かしている。
- JA担当者も含む、現地指導の立会い等を経験した管外の担当者が、地元で指導を行っている。令和3年度以降の認証取得に携わった普及員数は、令和3年度の2名から令和6年度で15名となった。
- 経験が浅い指導者へのフォローとして、革新支援専門員が現地指導に同行し、県域での指導レベル向上の支援を行っている。
- GAPの実践的な指導ができる人材の増加に伴い、県内での取り組みは点から面へと拡大しつつある。
- 持続可能な産地形成を支援するために、GAP取り組みの意義をしっかりと伝えられる指導者を育成していきたい。



農家向けの現地研修会



関係者での現地指導

# きのこ生産法人へのGAP認証取得支援

所属 長野県農政部農業技術課 副主任専門技術員 風間 宏

## 主な活動内容

きのこ生産法人2社に対してASIAGAP認証取得支援を行っている。現在は1～2か月に1回、関係者で打合せを行い、各管理点について必要な取り組みや書類の準備を進めている。

これから自主点検として工場内の食品安全（特に異物混入）や労働安全についてのリスク評価を実施し、関係者（普及指導員を含め、各6名程度のHACCPチームを編成）で審査準備を行う。

## 指導先の概要

認証の種類 : ASIAGAP  
認証の取得年 : 令和6年  
品目 : しめじ  
生産量 : 約1,000t

A社：ブナシメジの生産から販売まで行う法人。平成26年にJGAP認証取得し、長野県内では積極的にGAPを実践している。ステップアップとしてASIAGAP認証を令和6年7月に取得。

認証の種類 : ASIAGAP  
認証の取得年 : 未取得  
品目 : えのきたけ

B社：エノキタケの生産法人。販路拡大と実需者からの要望から令和7年にASIAGAP認証取得を目指している。

## 活動、指導のポイント

きのこ生産者に対するGAPの指導は異物混入対策を軸とした食品安全と大型機械や高圧殺菌釜を使用するため、労働安全の取り組みを重点的に行っている。

A法人に対してはASIAGAP認証を取得するためにHACCPチームを結成し、JGAPの管理点の見直しやフローダイアグラムの作成、各工程のリスク評価の作成を支援した。内部監査として食品安全は包装工程中心に実施し、労働安全は各作業工程のリスク評価や整理整頓を作業責任者も交えて実施した。また、きのこの栽培には農薬を使用しないが、施設の敷地が広いため草刈り機や除草剤を使用している。そのため保管場所の整理整頓や農薬管理、実施記録の整備については入念に行った。

B法人に対しては令和7年に認証取得を目指しているため、定期的にHACCPチームで打合せを行い、マニュアル作成を中心に必要な取り組みや書類の準備を指導している。打合せの中で既存の生産計画や記録簿で対応できる管理点や資料は流用し、効率良く準備が進むように支援している。従業員が多く、外国人研修生も雇用しているため職場環境の整備と効果的な教育訓練の方法が課題と感じている。また、今後は審査に向けて各工程の食品安全、労働安全、環境保全のリスク評価を行い、HACCPチームでの内部監査を予定している。



A法人の内部監査風景



A法人の5S実施状況

# 農業高校のGAP認証取得支援と指導能力の向上

所属 香川県西讃農業改良普及センター 片桐孝樹、小河原良文

## 主な活動内容

1) GAPの実践（GAPをする）に対する支援  
GAPの実践を指導する経営体の(教育機関含む)リスト化と、具体的な推進方策等について検討を行い、効果的な活動の展開を図っている。

推進に当たっては、対象者各々の状況に応じた参考資料を作成し、個別訪問等により指導を行っている。



推進方策等の検討

2) GAPの認証取得（GAPを取る）に対する支援

国際水準GAPの認証取得や維持更新を目指す法人、団体等に対して指導員資格を持つ普及センター職員が中心となり、コンサルタントとして指導を行っている。

## 指導先の概要

認証の種類 : JGAP

認証の取得年 : 平成30年9月(日本梨)、平成31年1月(アスパラガス)

品目 : 日本梨、アスパラガス

面積 : 11 a(日本梨)、2 a(アスパラガス)

香川県立笠田高等学校は、創立100年近くの歴史を持つ農業・家庭の専門高校である。現在、農業科（農産科学科・植物科学科・食品科学科）と家庭科（生活デザイン科）の4学科、10コースで、それぞれの特色を活かした学習や学園生活を通じて、社会の進展や時代の変化に対応した地域に貢献できる生徒の育成を目指している。

県内の教育機関では唯一、平成30年度にJGAPの認証をアスパラガスと日本梨で取得し、現在に至っている。



高校生への指導



普及センターで作成した推進用テキスト

## 活動、指導のポイント

普及センターでの普及活動は、普及指導員がGAP認証取得を目指す農業法人と共に、コンサルタントの指導を受ける中で、手順や管理点の内容を習得し、管理簿の整理や作成等の取り組みを実践していくことから始まった。

指導先である笠田高等学校に対しては、普及指導員自らがコンサルタントとして、前述の経験を活かした「管理点と適合基準」の説明や施設の点検、模擬審査の実施等の指導に努めている。例年、認証に係る審査は6月頃であり、それまでに授業の一環として農産科学科の3年生への指導を行っている。

また、高校生に、若手職員を同行させることで指導能力の向上を図り、普及活動の中で管内の生産者や団体に対して、経営の考え方や農場の将来像に応じたGAPの理解や導入の推進に繋げるよう心掛けています。



生産者と共に、GAPを学ぶ



コンサルと現場の課題を確認



農業法人での従業員研修



経営指導の中で課題を共有

# GLOBALG.A.P.の認証更新に向けた内部検査の実施

所属 愛媛県南予地方局農林水産振興部八幡浜支局地域農業育成室

## 主な活動内容

- GLOBALG.A.P.の認証を取得しているかんきつ生産者の認証更新に向けた内部検査を実施した。
- 検査では、リスク評価表や各種記録表等の文書の確認や農薬・資材が適切に保管されているか、期限切れの資材等ないか等の現地確認を行った。
- また、教育訓練のうち、実施できていない項目があったため、必要な内容について指導するとともに、実施方法についても指導を行った。
- その他、水質検査や残留農薬分析の手順の説明・実施支援を行い、円滑に更新審査を進められるように指導を行った。

## 指導先の概要

認証の種類 : GLOBALG.A.P.  
認証の取得年 : 平成29年  
品目 : 温州みかん  
面積 : 20a

- 平成29年にGLOBALG.A.P.の認証を取得。
- 新基準（Ver.6.0）になった昨年度は、全国にも先駆けて更新審査を受審。
- 認証品目は温州みかん（施設栽培）で栽培面積は約20 a。
- ハウスは2棟あり、隔年で収穫を行っている。
- GAP非認証品の温州みかん（10～12月収穫）も栽培しているが、認証品の温州みかんは、施設栽培で越冬させ、1月に収穫を行っているため、両者が混在しない仕組みとなっている。
- 輸出にも取り組んでおり、例年2t程度の温州みかんを台湾に輸出している。
- 労働力は本人と妻、母の3名であり、摘果や収穫時等に3名程度、臨時で雇用している。

## 活動、指導のポイント

- 平成29年に認証を取得しており、今回で7回目の更新審査であったため、チェックリストやリスク評価表の確認では、改植の有無や新しく購入した農薬や肥料等の資材が反映されているかの確認を中心に実施。また、前年度に是正対象になった項目を重点的に確認し、検査の効率化を図った。
- 現地確認では、検査時点で実施可能な作業（収穫、選果等）は、実際に行ってもらうなど、実情に近い形で検査を行い、改善点の見える化を図った。
- また、「チェックリストをつくること」、「更新審査に通ること」が目的とならないよう、適宜、各書類を作成する目的を説明しながら検査を行う等、GAPの意義を理解してもらいながら指導を行うように留意した。
- 検査時には、管内の普及指導員にも同席してもらい、審査を見学してもらうなど、GAPについて理解を深めてもらうとともに、GAPの指導ができる人材の育成にも努めた。
- 継続的に指導を行うことで、生産者自身が作業場周囲の問題を把握して改善したり、働きやすい環境を整え、作業能率の向上にもつながった等の声があり、GAPに取り組むことの効果がみられた。



文書の確認



農薬保管庫の確認

# 屋久島における茶生産者へのGAP支援

所属 鹿児島県熊毛支庁屋久島事務所農林普及課

## 主な活動内容

屋久島の茶生産者への主なGAP支援として、毎年「クリーンな茶工場実態調査」を実施している。この調査は、茶づくりにおけるクリーンな実践基準の遵守を徹底するために行っている。調査方法としては、「かごしま茶生産工程管理（かごしま茶基礎GAP）」のチェックシートを用いて確認している。

また、令和6年度には、初めてASIAGAPの内部監査員を務め、外部審査時の支援も行い、ASIAGAP認証取得の支援を行った。

## 指導先の概要

認証の種類 : ASIAGAP  
認証の取得年 : 令和7年  
品目 : 茶  
面積 : 17ha

「するGAP」の指導先は、屋久島町の全茶生産農家14戸。「とるGAP」の指導先は、3戸の生産者が加盟している1組合に行った。屋久島は年間を通じて降雨量が多く、豊富な水資源と多様な植生を有しており、1995年（平成7年）には世界自然遺産に登録されている。この気候を生かして果樹や茶といった農業と観光が基幹産業となっている。

茶は町の農業産出額1位を誇り、令和4年度には栽培面積88ha、荒茶生産量は261tに達する。しかし近年、荒茶価格の低迷により、生産コストの低減と、荒茶・仕上げ茶の販売価格の安定が課題となっている。

## 活動、指導のポイント

クリーンな茶工場実態調査については、チェックシートに基づいて「国際水準GAPを実施する」支援を行った。

チェックシートは、1.工場内の服装、2.工場の衛生管理、3.工場内の作業環境、4.製品管理の項目ごとに確認できるようになっている。このチェックシートを社長や従業員に配布し、各項目について茶工場内で確認を行った。改善が必要な項目については、改善方法を全員で話し合い考えてもらった。調査後は、後日再度訪問し、改善状況や改善方法の確認を行った。

「ASIAGAP認証を取得する」支援については、内部監査員として支援を行った。内部監査は、ASIAGAPの管理点と適合基準を活用して実施した。

GAP支援で大切なことは、GAPを継続することである。そのためには、農場内のリスクや経費削減につながるGAPのメリットを伝え続けることが必要だと思う。

今後もGAPの支援を通じて、クリーンな「屋久島茶」の安全・安心を広めていきたいと考えている。





